**最新の医療ICT、EHRに関する件**

近年、医療分野におけるICT（情報通信技術）の活用が進み、特に電子健康記録（EHR）の導入が注目されています。EHRは、患者の生涯にわたる医療情報をデジタル化し、医療機関間で共有する仕組みであり、医療の質向上や業務効率化に寄与します。

日本政府は「医療DX令和ビジョン2030」を策定し、医療のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進しています。このビジョンの一環として、2024年度中に全国の医療機関で電子カルテ情報を共有するシステムの運用開始が予定されています。 このシステムにより、患者情報の一元管理が可能となり、医療機関間の連携強化や診療の効率化が期待されています。

また、地域医療情報連携ネットワーク（地連NW）の整備も進められており、2023年度の調査では全国で279のネットワークが確認されています。 これらのネットワークは、医療機関や介護施設間での情報共有を促進し、地域医療の質向上に貢献しています。

さらに、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインも整備されており、個人情報保護やシステム運用管理の適切な対応が求められています。 これにより、医療情報の安全な取り扱いと信頼性の確保が図られています。

ICTの活用は、患者データの一元管理や医療コストの削減など、多くのメリットをもたらします。 今後も、医療分野におけるICTとEHRの導入・活用がさらに進展し、医療サービスの質と効率の向上が期待されます。